

グラビア	地域を支える人 堀口雅人さん・埼玉県加須市	1
発掘！地域の希望のタネ	〈今井町〉奈良県橿原市	5
給食のじかん	〈もうぶりめし〉高知県宿毛市 戸田愛美	6
書評	田邊昌徳 著『ガバナンス貨幣論—理念・歴史・制度設計』菅原敏夫	8
焦点	廃棄される太陽光パネル処理の課題 吉田 綾	10

特集 **かすむ分権と自治の未来**

インタビュー	分権改革の現在地と自治 今村都南雄+坪井ゆづる	16
	地方分権改革の理念を無視した最高裁判決 片木 淳	26
	分権改革と自治体職員の意識の変容 小関一史	34
コラム	“分権と自治”の組合員の感覚	43
インタビュー	デジタル時代における自治—福岡県広川町 氷室健太郎	44
	「自治」を強める自治研活動 篠田 徹	51
地域おこし協力隊が行く!	第13回 島根編⑥隠岐の島町 人に役立つ仕事で生計をたてられるように 川上主税	60
あの時、私の職場では	職員の感染による自宅待機でひっ迫した介護現場 天本敬久	66
自治研活動レポート	政治・経済情勢を展望し、労働者の人権を学ぶ—佐賀県本部 夏秋俊男	70
結びつなげる! しまね自治研	世界遺産や日本遺産、国立公園も! 文化・歴史・自然あふれるまち 大田市 高木裕介	72
しまね自治研 カウントダウン セミナー	「コミュニティ・オーガナイズングから学ぶ自治の力」参加体験記 自らの気づきが問題解決の糸口へ 引き出すという心持ちの重要性 その人の中にすでにある答え 大隅 靖 西澤公太 川合正晃	74
	自治研センターの機関誌案内	79
	次号予告・編集部から	80



『ガバナンス貨幣論』
理念・歴史・制度設計

岩波書店 八一四〇円

田邊昌徳 著
CBPB

「これを読め」とお勧めするのを躊躇するくらい大部(四〇〇ページ超)で、あまりに高価(一ページあたり二〇円超)だ。それに著者はかつての日本銀行幹部。こっちがお金を払って自慢話や異次元緩和の言い訳を聞くなんて。その心配はない。著者が職業人生全部をかけて勉強してきたことを皆さんにお



伝える。まずはお金は誰が作っているのか。そりゃあ日銀でしょう。日銀券て言うし。そうではない。民間銀行の貸し出し(信用創造)がお金の誕生する場所。日銀は民間銀行に貨幣を供給し、民間銀行の預金を預かり、サポートする。この協働の仕組みを著者はCBPB(中央銀行・民間銀行)システムと名付ける。この仕組みが円滑に節度を持って運営され、ガバナンスされることが現代金融制度の肝だと。

財政マネー—ただ最近では政府が直接お金を配ったりと政府が作り出すお金(財政マネー)も無視できない。財政マネーのガバナンスはとりあえず日銀の範囲ではない。むしろ私たち選挙民のガバナンス権限かも。結論は平易だがそこに至る検討は面白かった。MMT(自国通貨建の国債は破

綻しない)、ビットコインと、日銀の敵かなと思われてきた動きを検討し、長所を見つけそのガバナンスのやり方に学ぶ。CBPBはそれらのいいところ取り。著者が一番強調したかったことは意外だった。貨幣システム・金融制度は、教育制度や医療制度と同じく制度資本だし、社会的共通資本であるべきだといふのである。すなわちみんなのもの、コモンののだと。

そのガバナンスの成否は、権力欲や金儲けでなく、専門知識・技術を身につけた専門家集団の職人魂によるとされる。祈るような期待を込めて著者の意見に賛成する。最後に一つ。本書の索引は使いにくかった。本書のように複雑な構造になっている本はしばしば前のキーワードに立ち返って確認する必要がある。なぜか本書の索引はキーワードが抜けている。評者 菅原敏夫 本誌編集委員